

1. 特に効果的であり改善に資した事例

E. 学習・研究環境の改善

①TA・RA 制度による修学上の支援

特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

①TA・RA 制度による修学上の支援

《人社系》

●東北大学教育学研究科総合教育科学専攻

「実践指向型教育専門職の養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

TA 制度は、主として学部教育の基礎科目(概論科目)に大学院生 2～6 名程度を採用し、①教員とともに毎回の講義についての事前討議(教案作り)、②教員とともに講義資料の作成(教材研究および教材作成)、③講義中でのファシリテーター役、④講義後の所感文の整理等を担当させた。

また、ある授業では、受講学生への講義外支援として、①TA が主催する授業サブゼミの実施、②授業用 WEB ページ設置による情報提供・交流支援などを行った。講義内だけではなく、講義外での学習支援を TA が行うことで、学生の講義に対する意識をより一層高めさせることや講義内外の学びの継続を図ることが可能となった。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

本プログラムを中心的に担った教育設計評価専攻の学生は教員志望者が多かったためか、TA 制度に積極的に関わってくれた。しかし余りにも熱心に取り組み、とくに講義後の所感文の整理等に時間を割きすぎること多々あり、作業を所定の時間内に止めるように注意を払った。

また、一つの講義に複数人の TA を割り当てることで、TA 同士の話し合いを活発にさせ、教員や講義に対する提案を積極的に行えるように工夫した。さらに、講義を活性化させるために、教員と TA が意見交換できる時間を確保し、両者が十分に意思疎通できるような配慮を欠かさなかった。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

TA が積極的に講義内外へ関与したことで、授業者の立場と受講生の立場を統括した教育者として必要な視点を TA は獲得することができた。とくに就職を控えた博士課程前期・後期の大学院生にとっては、学生の実態に応じた講義資料作成方法、講義の展開、アセスメントなどに関して、教育者としての力量を培うことができた。

また、TA 自身への効果だけではなく、講義内容や受講学生、教員への好影響も多々見られた。このような効果が評価され、支援期間終了後、本プログラムにおいて実施した TA 制度は、全学的な取り組みとして採択された。現在では、大学院生による TA、学部学生による SA が実施されている(学内名称=SLA student learning adviser)。

1. 特に効果的であり改善に資した事例

E. 学習・研究環境の改善

①TA・RA制度による修学上の支援

〈理工農系〉

●福井大学工学研究科

「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

TAの枠を充実できた。TA制度には学生に対する修学支援だけでなく、研究能力を高める意味もあり、工学研究科では、従来から可能な限りの経費を措置してきたが、本教育プログラムの実施により、TAの枠が従来の約1.6倍の規模に拡充できた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- (1) 従来研究科で行っていたTAの審査・採用業務を、高度人材育成センターに移管した。同センターは、TAに関する業務全体を統括し、大学院教育全体を見据えて適切なTA経費配分を実施する体制を整備した。
- (2) TA経費の工学研究科による負担分は従来通りとし、工学研究科からの支出と本教育プログラムからの支出を合わせてTA枠の拡大を支える体制をとった。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- (1) 従来、TAを配置する科目は実験や演習に限られていたが、TAの枠が拡大されたことにより、講義科目にもTAを配置できるようになり、学部教育の充実を図ることができた。
- (2) TAの指導を受けた学生から、「聞きやすく、理解が深まった」との感想が多く寄せられ、教員の指導を補完する役割をTAが十分に果たしていることが確認できた。
- (3) 担当科目に関する理解が格段に深まったとの声がTAから多く寄せられており、TA業務への従事がTA自身に深い学習を促したことがわかった。
- (4) 教育的力量や指導力が向上したとの声がTAから多く寄せられており、TA業務に従事することによってTAの教育的技量が向上したことがわかった。